

ORACLE®

# 日本オラクルの戦略

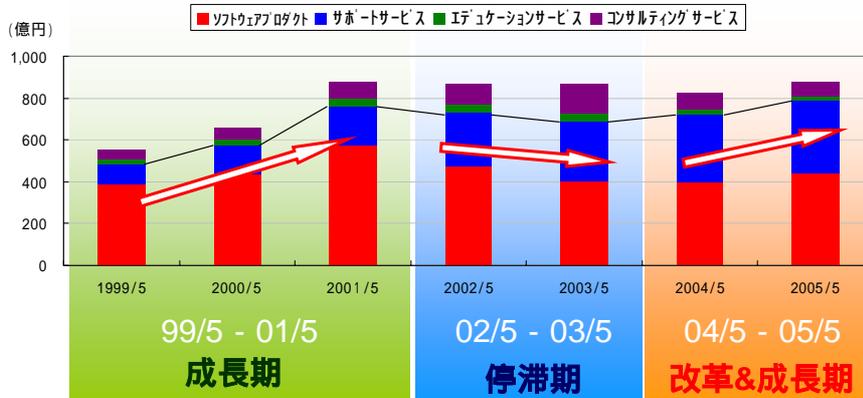
- Go for Growth -

日本オラクル株式会社  
代表取締役社長  
新宅 正明

ORACLE®

2

# 日本オラクルの業績推移

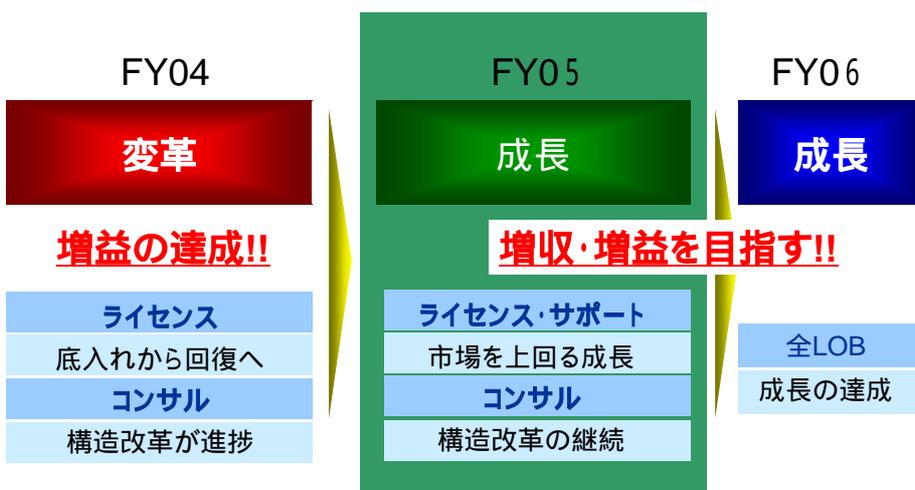


2004年5月期に基幹ビジネスであるソフトウェアロダク及びサポートサービス売上合計の回復傾向が鮮明に。

ORACLE

3

# Oracle Japan Innovation2003 におけるFY05の位置付け



ORACLE

4

## 2005年5月期業績予想のポイント

**事業環境** 日本経済の回復傾向が鮮明に

### IT投資の伸び

RDBMS(オープン系)市場の成長率 CY2004-2005 **7.1%** ↑  
(IDC Japan, June 2004)

### 市場の二極化

|       |  |
|-------|--|
| ハイエンド | システム統合、メインフレームからの移行など<br>ミッションクリティカルなシステム需要 → 価格維持 |
| ローエンド | コモディティ化したDBへの需要 → 数量大幅増                            |

### 産業別動向

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 製造 | 業績好調なハイテク、自動車産業の積極投資          |
| 通信 | IP網を利用した携帯電話、ナンバーポータビリティ関連の投資 |
| 金融 | 新BIS規制関連需要                    |
| 医療 | 電子カルテなど病院内管理システム、治験ビジネスへの投資   |

ORACLE

5

## 2005年5月期業績予想のポイント

**当社の施策**

### ビジネスのカバレッジ拡大

#### 営業体制の刷新

- インダストリーにフォーカスした体制の刷新
- クロスインダストリーの体制強化(Oracle Direct)
- パートナービジネスの強化
- Oracle On Demandを積極的に提案

### 提供できるバリューの訴求

#### OIAの推進

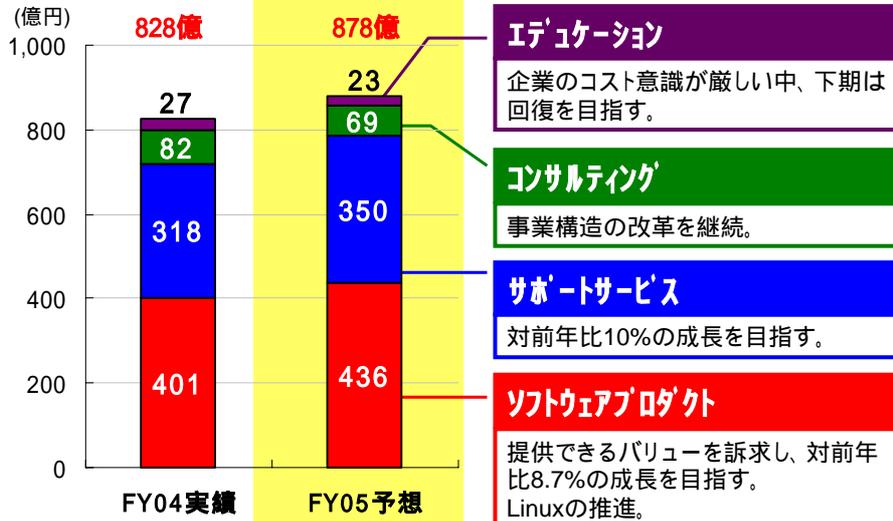
- Oracle10gなど主力ソフトウェア製品のビジネス機会と用途の拡大
- データベース市場でトップシェア維持と拡大
- その他製品の市場への浸透

OIA: Oracle Information Architecture

ORACLE

6

## LOB別売上



**エデュケーション**  
企業のコスト意識が厳しい中、下期は回復を目指す。

**コンサルティング**  
事業構造の改革を継続。

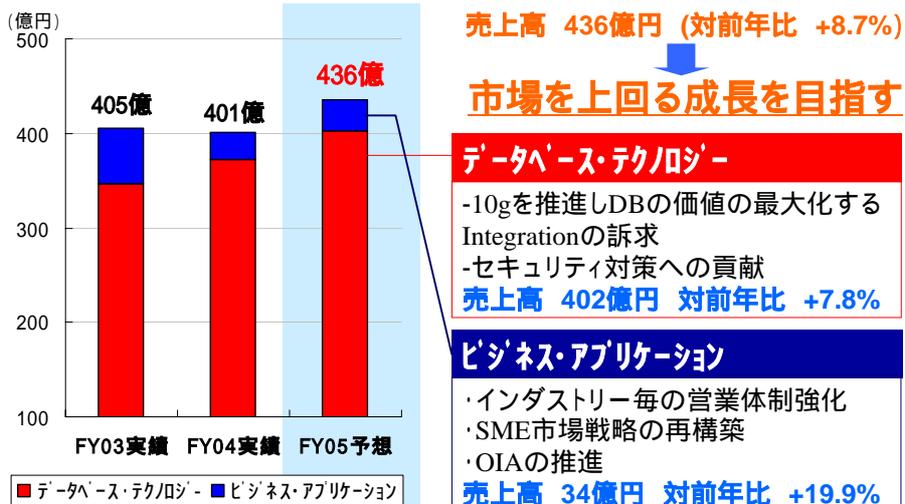
**サポートサービス**  
対前年比10%の成長を目指す。

**ソフトウェアプロダクト**  
提供できるバリューを訴求し、対前年比8.7%の成長を目指す。  
Linuxの推進。

ORACLE

\*実績については表示単位未満を切り捨て 7

## ソフトウェアプロダクト売上の成長



売上高 436億円 (対前年比 +8.7%)

市場を上回る成長を目指す

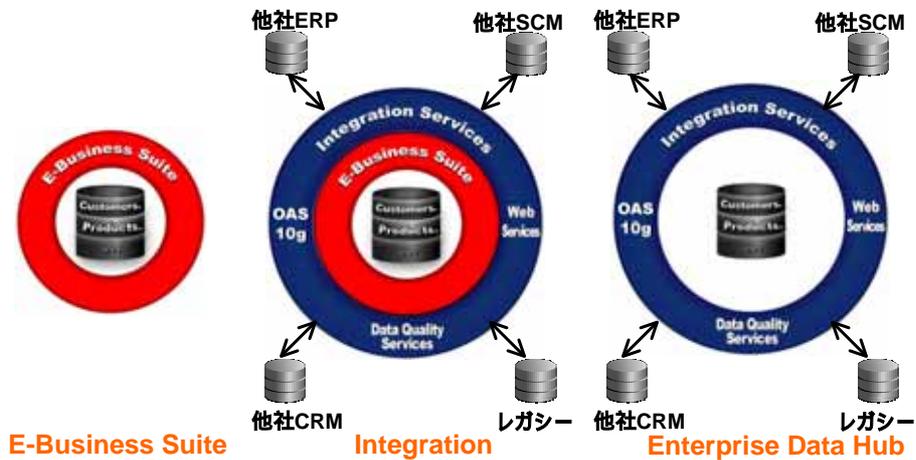
**データベース・テクノロジー**  
-10gを推進しDBの価値の最大化する  
Integrationの訴求  
-セキュリティ対策への貢献  
売上高 402億円 対前年比 +7.8%

**ビジネス・アプリケーション**  
・インダストリー毎の営業体制強化  
・SME市場戦略の再構築  
・OIAの推進  
売上高 34億円 対前年比 +19.9%

ORACLE

8

## Oracle Information Architecture(OIA) による3つのアプローチ



ORACLE

9

## セキュリティ・イニシアチブ

Oracleの取り組み

### Security as Corporate DNA



- **製品セキュリティ**
  - **セキュアな製品のライフサイクルと保証**
    - ISO-15408(情報技術セキュリティ評価基準)取得
    - 開発プロセス、企業文化の変化
  - **情報を確実に保護するための機能と製品**
    - セキュリティ対策のための機能
    - セキュリティ用オプション製品

ORACLE

10

## 幅広い製品カバレッジ

### データベース・テクノロジー製品 **Oracle10gソリューションの推進**

|                     |  |
|---------------------|--|
| <b>データベース</b>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>- Oracle10gの推進</li> <li>- 様々な用途に対応できる製品ラインナップ<br/>EE、EE Option、SE RAC、SE One</li> </ul>             |
| <b>アプリケーションサーバー</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>- BI機能の強化(2004年秋以降リリース版より提供)</li> <li>- Java技術者の囲い込み<br/>Java開発環境 JDeveloperをソースネクストより提供</li> </ul> |

### ビジネス・アプリケーション製品 **ニーズに沿った製品の提供**

|            |   |
|------------|---|
| <b>EBS</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>- システム統合の要請に対応<br/>Customer Data Hubを2004年秋以降リリース版より提供開始</li> <li>- インダストリー毎の機能強化</li> </ul> |
|------------|---|

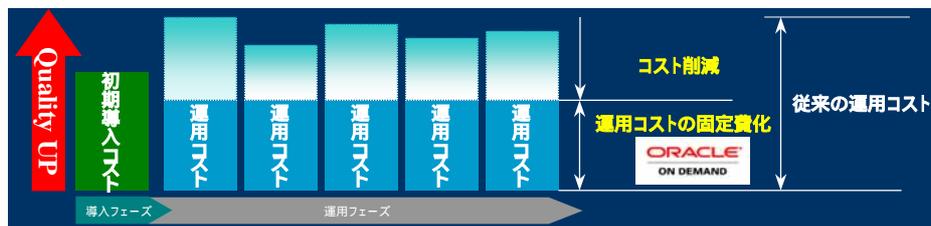
ORACLE

11

## Oracle On Demandの推進

### Oracle On Demandのメリット

- 運用コストの削減、固定費化
- 専門家運用による運用クオリティの向上



### Oracle On Demandの費用

|                               |               |
|-------------------------------|---------------|
| Technology On Demand          | 1CPU当たりの年間定額制 |
| E-Business Suite On Demand    | 1ユーザ当たりの年間定額制 |
| Collaboration Suite On Demand | 1ユーザ当たりの年間定額制 |

ORACLE

12

## 注意事項

本資料に含まれている業績予想等、歴史的事実以外の事象については、本資料の発表日において入手可能な情報から判断された一定の前提に基づき日本オラクル株式会社が策定したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があることをご承知おきください。

取材のお申し込みやお問い合わせは以下までお気軽にご連絡ください。

ファイナンス本部 IR・企画管理部  
TEL 03-5213-6136 FAX 03-5226-8479  
IR Web Site <http://www.oracle.co.jp/corp/IR/index.html>

ORACLE

13

ORACLE®